

令和6年度第6回柏市教育政策審議会会議録

1 開催日時

令和7年2月18日（火）

午後10時から午後12時まで

2 開催場所

柏市役所沼南庁舎5階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

天笠会長，寺本副会長，中田委員，伊藤委員，藤崎委員，青木委員，鈴木委員，入道委員，少路委員，神田委員，坂本委員，古橋委員，阿部委員（計13名）

(2) 事務局

田牧教育長，原田教育総務部長，籠教育総務課長，松澤教育総務部次長兼教育政策課長，田村教育政策課副参事，柳澤教育政策課副主幹，布施教育政策課主査，平川教育政策課主事，古谷教育施設課長，中村教育総務部次長兼学校給食課長，佐藤学校給食センター所長，宮本生涯学習部長，竹内生涯学習課主幹，福島学校教育部長，依田学校教育部上席技監，原学校教育部次長兼学校教育課長，渡辺学校財務室長，福田教職員課長，平野指導課長，石井児童生徒課長，金岡教育研究所長，幕内市立柏高等学校事務長（計22名）

4 教育長あいさつ

5 前回審議会の振り返り

会長進行のもと，資料3に基づき，前回審議会の会議録について確認し，全会一致で承認された。

6 本日のスケジュールについて

資料4に基づき，本日の審議会の位置づけ及び議題を確認した。

7 議事（パブリックコメント）について

事務局より資料5，資料6に基づき，パブリックコメントで寄せられた意見の概要を説明した。

8 議事（基本方針答申案）について

事務局より資料7～9に沿って，基本方針答申第2案からの主な修正点を説明したのち，審議を行った。

《以下，委員からの意見及びそれに対する事務局からの回答》

(1) 本編について

（天笠会長）

第1章から第4章までの構成になってますので，章ごとに確認をしていきたいと思います。

まず目次と第1章です。文言をとりわけ修正するというのではなく，他の計画で設定されている子ども像との関係を明確にするという意図で「学校教育が目指す」と明記した，という説明がありました。

学校教育で目指す子ども像が，柏市の他の計画で目指している子ども像とは違った独特な子ども像を明示しているわけではなく，学校教育が引き受ける範囲での子ども像であるという意図で記載しているということを，説明時に重要視する必要があると思います。

続いて，第2章についてはいかがでしょうか。

（阿部委員）

6ページの図表について，自己肯定感の配置や色が修正されたとの説明がありました。内容が変化したわけではないと思いますが，修正の趣旨をもう一度ご説明ください。

（事務局）

目指す子ども像については，これまで図表2-3を用いて議論ただいてきました。「自己肯定感」や「未来を切り開く」といったワードは，当時の会議資料としてその他のワードと区別するため色を変えて示しておりましたが，今回，基本方針で示す図表とする際には，当時の区別は不要ということでグレーの内部検討に入れさせて

いただいております。

(天笠委員)

現在は、アンケートや審議会委員の意見で色分けしてありますが、最終的な成案になる時にはどのように示す考えでしょうか。

(事務局)

成案になった場合も、アンケートで目指す子ども像に対してどのような意見があったのか、また、教育委員会内部または審議会委員からいただいた意見を示すに当たり、色ごとに整理したいと考えております。

(天笠会長)

審議の経過をここに記すことで、それぞれの立場の言葉を集約した上で、子ども像を設定していることを伝えるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。これまでの審議の過程を踏まえて、各カテゴリーからどのような意見があったのかもはっきり見せていく必要があると思っております。

(天笠会長)

注釈の部分にでもそのような意味を付記しておくことで、意図が分かりやすくなると思います。

(天笠会長)

次に第3章です。望ましい学校規模については、小学校は3学級から4学級、中学校は4学級から6学級を求める意見が多数ですが、これは学年あたりの数であり、全校で3、4学級ということではないことを確認いただければと思います。

(2) 資料編について

(天笠会長)

資料編は、これからどう活用していただくか、生かしていただくかというところが重要になってくると思いますが、この点について感想、意見等々がございましたらお願いします。

(藤崎委員)

先ほどパブリックコメントの概要をご提示いただきましたが、1番インパクトがあったというか、関心があった部分は、提出者の年代のところですか。

資料編の4ページにパブリックコメントの概要が掲載されていますが、年代別の内訳は掲載されていないので、掲載するべきではないかと思いました。

(3) 地域カルテについて

(天笠会長)

説明のあった活用方法について追記するというのは、どの部分でしょうか。

(事務局)

資料1ページ上部の黄色のハイライトで示し、枠で囲った部分です。

(天笠会長)

学校の歴史の振り返りや、現状の確認、将来の学校のあり方や地域との関わり等々の検討に際する基礎資料として活用するという説明です。

次ページ以降に記載されているこの表の見方や何を示しているのかについても、1つの利用の仕方を示唆するものであると考えたので、ご説明させていただきました。

他によろしいでしょうか。お気づきの点はありますか。

(4) 全体について

(天笠会長)

それでは、それぞれの答申書案ですが、基本方針、資料編、地域カルテ、この3点につきまして、これでよいかご意見をお願いしたいと思います。

感想も含めてでも結構ですので、一言ずつお願いできますか。

(中田委員)

これまで会を重ねて考えてきたことがしっかりと反映されている
と思っております。

特に方針の部分は、市民の皆様や、学校現場、保護者の皆様や子
ども達とも、共有する必要があるのかなと思います。

(伊藤委員)

私も、これまで審議されてきたことがまとまっていて良いと思
います。

特に資料編につきましては、今後、学校だけでなく、地域の方と
も一緒になって学校運営していく時に、とても良い参考資料になる
かと思っておりますので、こちらも活用できると良いな思いました。

(藤崎委員)

私も同じですが、これまでの審議の経過を踏まえて、非常に分か
りやすくしっかりとまとまったものが出来上がったのではないかな
と思います。

個人的には、第3章の誰一人取り残さない学校教育の推進のと
ころにつきまして、1番目に「学びをつなぐ」が来てますけれども、
次の「子ども主体の学び」を1番最初にもってきた方が良かったの
ではないかなと思います。

でも、全体的には、本当に良いと思います。

(天笠会長)

先ほどご発言いただいた、パブリックコメントの世代別の回答数
も資料編に記載する、ということはとても大切なご指摘だと思
いますので、事務局には是非対応していただければと思います。

(鈴木委員)

私も、今まで開催してきた教育政策審議会の内容がきちんと反映
された資料になっていると思います。

保護者の立場からしても、子どものことをよく考えられた内容に
なっているのではないかと思います。

また、資料編や地域カルテ等は、コミュニティスクールでもうま
く活用できると思います。

(青木委員)

長い間審議してきた内容がこのように資料にまとまって感慨深いものがあります。良かったなと思うのが、パブリックコメントの意見を集約して聞き流すだけでなく、しっかりと対応されようとしているということが分かりましたし、すごく有意義な意見が取れたのではないかなと思うので、今後も10年に1回と言わず、たまにはこのような感じで市民から意見を聞いても良いのではないかなと思いました。

(入道委員)

この資料の活用を真剣に考えて、コミュニティスクールや地域の方との交流等の時にいろいろ使っていけるようにしていかないともったいない資料であると思っております。

また、これだけ素晴らしいものができたので、今後これをどのように進めていくのかなというところがとても気になります。パブリックコメントや先生方からもいろいろなご意見が出ており、基本方針に基づいて進めていくなかで、取り組んでいかなければならないことが課題として上がってきていることに対して、どうやっていきたいのかということを中心にきちんと考えて取り組んでほしいなと思います。

(少路委員)

非常に良い審議会であったなと最終的に出来上がったものを見ると思うのですが、自分自身が生まれてからずっと柏市に住んでいて、50年間ぐらい小学校、中学校のあり方をずっと見ていると、10年前と今では大きく変わってきています。そのため、基本方針は10年先のことを頭の中に置いて作成しているけれども、これに縛られないで、資料として柔軟に活用しながら変えていくということも良いのかなと思います。

(天笠会長)

今の話に関連して紹介すると、柏市は目覚ましい街です。人口が5万人ぐらいの街でしたが、短い間で40万人となっています。このような街のこれからの10年、20年、30年をどう見据えてい

くのかということについて、1つの形としてご提言させていただいたものが今回の答申書になるかと思いますが、時間軸のようなものを持つということが非常に問われるような時代に入ってきているのかなと思いました。

(阿部委員)

丁寧に資料や説明をいただき、ある意味で可能なものが全て取り込まれていると思いますので、本編、資料編、地域カルテの3点については、今後も含めて結構ではないかと思います。

パブリックコメントについては、アンケートと違って、回答者に年代の偏りが出たり、たまたま義務教育学校のようなテーマがあるとこれに関心のある人の回答が集まってきてしまうなど、パブリックコメントという制度自体の問題が出て、少し残念であるなと思います。

(古橋委員)

この審議会に参加させていただいて、私も非常に勉強になりました。

学校関係者の方のアンケートや今回のパブリックコメントで、自分と同じ意見であったり、違う意見であったりすることがたくさんあると思います。

まずは、保護者も含めて知ってもらうことが大事ですし、主になる子ども達にも考えていただくような機会を、学校、家庭、地域で作っていただけたらと思います。

(坂本委員)

1年余り皆さんと議論したことがこの資料に反映されていて、とても読み応えがあって、皆さんが見ても面白いものになっているなと思いました。

先ほど藤崎委員からパブリックコメントの年齢層別の回答数を追加するという意見があったと思いますが、その部分以外のところもとても見やすくまとまっていたので、追記できるのであれば資料編に追加してもらえると良いかなと思いました。

(神田委員)

長い期間議論してきたものが、都度都度しっかりと説明もいただいたこともあり、本当によくまとまっているなと思い感動しております。

やはりパブリックコメントでは、子育て世代や子ども達がこれから小学校、中学校に進学するといった世代の意見がとても少なかったもので、そのような世代の方に届いてほしいなと思いました。

また、そのような人達に届けるにはどうしたらいいのかなというところを今後考えていかなければならないなと思います。

私も柏市で育ってきましたけれども、環境や学校の教育等もどんどん変わっていく時代の中で、柔軟に対応して、皆さんでとても考えていらっしゃるなと思いました。

私は今子育てをしてる真っ只中なので、このような資料があるととても安心できるし、このように考えてくださってるんだなという方向性が見えるので、我々世代とかこれから子育てされる人にもよく読んでもらえると良いなと思いました。

(寺本副会長)

多面的にいろいろな方々のご意見があって、とても勉強になりました。

そもそも、変化が激しい社会ですとか予測困難だということが背景にあり、その10年先、20年先を考えようという未来志向の議論でした。パブリックコメント等を拝見しますと、各世代から満遍なくご意見がいただけなかったということでしたが、子育て中の方やこれから子育てをする可能性のある29歳以下の世代にとって、閲覧場所がアクセスしづらかったのではないかと思います。本当はその世代の方々にも見ていただいて、考えていただけたら良かったと思いますので、この点が今後の課題になるのかなと思います。

しかし、様々なご意見がこういった形になったということで、これからいろいろな個別的な事案に関して議論する時の羅針盤として機能することを願っています。

(天笠会長)

では、皆様にこの答申案をお諮りさせていただきたいと思います。

基本方針本編と資料編と地域カルテ，この3点を揃えまして，本審議会の答申として事務局に提出したいと思っておりますけれども，よろしいでしょうか。

<全委員 承認>

なお，先ほどそれぞれの委員からあったご意見はできるだけ反映させてほしいと思っておりますので，この後，修正等々もあるかもしれませんが，その点はお含みいただければと思います。もちろん，修正については内容を委員にお伝えいただいて，了解を得ることを含めて承認をいただいたということにしたいと思っております。

この後は答申書を事務局にお渡しさせていただきましても，その前に感想や基本方針の今後の扱いの希望などを一言ずつお願いいたします。

(神田委員)

やはりこれから子どもを小学校，中学校に進学させていくという保護者の皆様や我々世代の今まさに子育て中という方にまだ届いていない部分もあるかなとは思っています。

これからだと思っておりますけれども，そういう方に届けられるためにはどのようにしていく必要があるのかなと思っております。ただ置いておいて見てくださいでは，なかなか難しいと思うので，こちら側から積極的に発信したりとかお伝えしたりしていくことが必要なのかなと思っております。

(坂本委員)

例えば学校の授業で総合の時間とかに，目指す子ども像などを子ども達に伝えて，そこからどう感じるのかとか，そのような感想を言い合う授業があると良いのかなと思いました。

(古橋委員)

この話し合った内容がただの理想で終わらないように，先生方の働き方なども含めて，地域とのつながりとか実践できるものにしていかなければならないと思っております。

(阿部委員)

今回このような審議会があって、教育政策を形にしていくというのは柏市では初めてと伺いましたので、こういったことは何らかの形で続けてほしいなと思います。私の所属する業界でもそうですが、例えば大学は7年に1回評価機関による審査を受けることになっており、その時に中長期の計画を持ってない学校は、留意事項が付き、場合によっては、存続にかかわることになります。そのようなことを考えると、やはりこのような取組は引き続きお願いしたいところで、その際、市民の参加があれば幸せだなという気がいたします。

それから、今回の答申には、誰一人取り残さないという指針がありますが、その実現には、多様性を認め、ひとりひとり大切にすることが必要と考えます。今までの公立の学校教育の枠組みそのものが1回どこかで見直される必要があるのではと思います。

たまたま夜間中学のことで意見が出ていましたが、場合によっては通信制の中学校が話題になっても良いのではと思います。

例えば、小学校で英検2級を取った非常に優秀な子がいて、このような子達にもみなと同じ英語の授業を受けさせているとすれば、多様性を尊重した教育が行われているとはいえません。本当に多様性に対応できる公立の学校の仕組みというものを教育委員会自体が考えていかないと、不登校の児童生徒が増えることを抑制するのは困難と感じます。

そのため、それをどうするかということを実際に真剣に我々が考えていかないといけないと思うのです。

また、私自身は地域社会に軸足を置いて生活しています。ふるさと協議会、あるいは町会にも籍があり、地域では、健康問題や高齢者問題など、いろいろな課題を抱えています。その中の1つに教育の問題もあります。コミュニティスクール構想が動き出し、そこで地域との関わりが組織的に検討されていることは非常にありがたいことと思っています。

例えば、今部活の地域移行は、地域に大変大きな影響を及ぼしています。学校での部活動を地域活動に移行する方向で進めているのは、文部科学省を含めた方針でしょうか。

お父さんとお母さんの多くがフルタイムで働いていて、地域には

高齢者ばかりが残っている状況で、例えば土日の部活がなくなると、子ども達がどこに行くことになるかという問題は当然あるわけです。このような視点で、地域と教育の関わりという問題を中心として議論させていただく場が欲しいなと思ったりしています。

(少路委員)

普段は地元の町会でいろんなことを行っていますが、資料をたくさん出していただいたので、コミュニティスクールなり、学校の先生とお話する時なりに、「こういうことはどうでしょうね」とざっくばらんに今回の資料を活用しながら話していければ、地域との活性化という点でも良いのかなと思いました。

また、言い方は適切ではないかもしれませんが、実際に地域に住んでるのは普通の人で、その人達が、泣いたり笑ったりお酒を飲んだりして過ごしてる中での問題は、教育を含めていろいろあると思います。

自分のことにはなりますが、20代の頃、小学校の同級生みんなで集まって飲みながら、「俺達がこれからの柏を担っていくんだぞ」みたいなことがありましたが、あれから20年、30年、40年経って、また自分達の年代がやっていくんだぞというようなことで、この資料を出してみると、また少し変わってくるのかなと思いました。

(入道委員)

私も、普段の関わりの中で、今回いろいろ教えていただいたことや皆様のご意見等を、学校の先生や子ども達とどのように反映し、日々子ども達の笑顔をどんどん増やしていく活動につなげていくための参考にしたいなと思いました。

今回の答申では、学校の先生に関することもいろいろと書いてありますが、学校の先生とお互いに協力し合いながら、地域のことを行っていかなければいけないので、これだけの活動の内容を校長先生や先生方、いろいろな方によく知っていただいて、そこからさらに他の学校関係者に発信していただいたりして、コミュニケーションがどんどん取られるような1つの材料になれば良いかなと思います。

この大変素晴らしい資料は絶対活用していかないともったいないと思いますので、有効利用できるような方向に動いてほしいなと思います。

(青木委員)

周知を図ることには課題が多いかなと思いますけれども、古橋委員がおっしゃったように、やはり実践していくことが大切と考えています。こういうことがなされるらしいという、具体的なものが見えてくると本当の周知になるのかなと思います。

そのため、周知するためにも実践することを本格的に取り組んでいっていただけたらなと思います。

また、この審議会で八千代市の学校で見学してきたことが私としては本当に目から鱗で、それまで小中一貫教育に関してはそこまで期待していなかったのですが、上のお子さん達からすれば下のお子さんの面倒を見ること、下のお子さんからすれば上のお子さんに可愛がってもらえるという学校内の環境が、今少し問題になっている自己肯定感の部分において、勉強だけでない居場所づくりに繋がるのだらうなと思いました。

その点に関してすごく有意義な方針であると感じたので、伝わたら良いなと思います。

(鈴木委員)

私は地域カルテについて。学校運営協議会が柏市内の全ての地区に設置されているので、例えばこの資料にある配置状況とか地域状況、学区状況のところに、各コミュニティスクールで追記してもらっても良いかなと思います。また、柏市の各地区の魅力ということで、周辺状況や学区の状況だとか、地域の概要が書いてありますが、このような情報をうまく利用して、柏市という大きなくくりではなく、北部や南部といったいろいろな地区があるので、柏市の人口増加にも繋げられるような資料になってくるのではないかなと思いました。各地域における人口の増減率の部分もあるので、そのあたりもコミュニティスクールを絡めていろいろ課題検討していただけるような資料ではないかなと思いました。

(藤崎委員)

学校現場でこれをどのように浸透させるかということが大きな課題かなとは思いますが、例えば、今我が校を見た時に、20代の若い教員が多い中で、これを読みなさいと言って、目を通すだけの余裕があるかということ、全くないと思います。

おそらく、それどころではなくて、毎日目の前の子ども達と格闘し、目の前の保護者と向き合うということで精一杯なのではないかなと。そのことと絡めて、先ほどのパブリックコメントの状況を見ても、若い世代がなかなかここに向いてないというのは、やはり日々子育てや仕事に追われていて余裕がないという現状が、おそらく今の日本の現状を謳ってることなのではないかなと思います。

そのような意味では、次の学習指導要領で、当事者性や自己調整力ということが盛り込まれると聞いてますけれども、日々の教育活動の中で、子ども達に主体的に学ぶことであったりとか、当事者意識を持って課題解決をしていくというような授業を進めていくことが重要なかなと感じました。

(伊藤委員)

私は、この審議会を通して、自身もこれからの柏市の学校教育をどのようにしたら良いのかということ、皆様のいろいろなご意見を伺いながら考えることができ、本当に私自身もたくさん学ぶことができました。

この答申とともに、地域カルテであるとか資料編だとかを教職員、それから地域の学校運営協議会の皆さんと見合いながら、今本校が置かれている現状であったりとか、今後このようになっていくだろうということ、を共有することで、課題や手立てなどが見えていくのかなと思いますので、そのようなところから始めていけたらと思っています。

(中田委員)

やはり周知と活用が大切という風に考えています。

周知というのは、作った側が発信することになるのですが、それを受け止める側が、ではどこが使えるのかなとか、この部分だったら子ども達と一緒に共有できそうかというように、その周知と活用

を重ねた上で、それぞれがそれぞれの立場で自分事として考えるというものになっていけば、作った甲斐があるし、次に繋がるということになるのかなと思いました。

(寺本副会長)

皆さんに知っていただいて、適宜ご活用いただければと思う反面、少々矛盾するかもしれないのですが、羅針盤というのは困った時に参照すれば良いものとも考えられます。また、方針の期間が10年間ということですので、これから3年先、4年先、5年先に、大きな変化が生じるかもしれないので、常に微調整できる幅を持たせておいた方が良いと思います。

あとは、阿蘇米本学園に視察に行った時に、多分その時にいただいたワードだと思いますが、「いつも未完成」というような言葉があったと思います。このマインドはとても大事だと思います。今回このように形にするということ自体、いろいろな方の議論を集約してみんなで作ったという、ひとつのコンプリート(完了・終了)という印象があります。しかし、だからと言って、それに縛られることなく、先ほどの少路委員のご発言のように、自分達で作っていく、誰かの指示に従うというよりは、自分達が主体として変えていくと行くことを応援する羅針盤であってほしいと感じています。

そのような意味では、本答申は1つのフレームなので、常に問い直していく視点も大切だと思います。これがあるが故に縛られて苦しくなるのは本末転倒だと思います。子ども達もそうですし、先生方の御負担がやや危惧されますが、そうならないよう、楽しくやりがいを持って、子ども達との学びが続いていったら良いなと思います。

(天笠会長)

それぞれの委員のご意見1つ1つが柏のこれからにとってとても貴重なアイデアとして発信されたのではないかと思います。

その1つのきっかけがこの答申のまとめではないかということで、これを起点にしながら、次の柏をお作りになっていくということになってくるのではないかと考えております。

さすがにこの答申を小学校の子ども達に読みなさいというのはな

かなか難しいのかもしれませんが，高等学校ぐらいになれば，探究の時間に扱うくらいのレベルの柏の子ども達を育てるということも，小学校から中学校，高等学校と積み上げていく1つのあり方として良いのではないかと思いますし，また，小学校，中学校，高等学校の総合の時間には，「柏の未来」ということをテーマにして扱っているという学校も現に存在しています。

「柏の未来」をテーマとして扱う時に，子ども達にも見合う資料に整え，1つの情報として活用していくというようなことも良いと思います。

また，内容を伝えるときは，文章よりもむしろ皆さんが学校に足を運ばれて，皆さんが皆さんの言葉で語られると，子ども達にとっては身近に感じるかもしれません。そのため，校長先生の立場からすると，地域の方々を学校にお呼びして語っていただくことを教育課程の中で企画していただくというのも有意義なのではないかと思います。

いずれにしましても，皆さんのお力添えをいただきまして，このような形でまとめさせていただいたということについて，改めてお礼を申し上げます。

9 傍聴

(1) 傍聴者

9名

(2) 傍聴の状況

傍聴要領に反する行為は，見受けられなかった。

10 配付資料

(1) 次第 令和6年度第6回柏市教育政策審議会

(2) 【資料1】 柏市教育政策審議会委員名簿

(3) 【資料2】 席次表

(4) 【資料3】 令和6年度第5回柏市教育政策審議会会議録

(5) 【資料4】 柏市教育政策審議会の進行スケジュール（予定）

(6) 【資料5】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針 （案）パブリックコメント概要

(7) 【資料6】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針

(案) パブリックコメント意見

- (8) 【資料 7】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
(答申案)
- (9) 【資料 8】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
別冊 資料編 (答申案)
- (10) 【資料 9】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
別冊 地域カルテ編 (答申案)